公益社団法人 土木學會 Japan Society of Civil Engineers 西部支部エクスカーション

砂浜は未来に残せるのか？

～糸島半島の美しき砂浜の現状と課題～



今、日本から海岸が消えています。「海岸浸食」といわれるこの現象は、美しい海岸の風景が消え去るだけでなく、海から寄せる波のエネルギーを吸収できずに津波の被害が拡大する可能性も秘めています。

今回のエクスカーションは、糸島半島を彩る美しい砂浜を探訪しながら、自然の循環や防災を考える旅にいたします。

日　時　令和7(2025)年3月22日(土)
9:00集合　17:00解散(予定)

探訪先　糸島半島ー虹の松原
集合場所　九大学研都市駅前(JR筑肥線)
対象　土木学会員、一般(中学生以上)
資料代　1,000円(昼食は別途)
定員　20名程度

※海岸を歩くので、動きやすい服装でご参加ください。
※アレルギーなどをお持ちの方は事前にお申し出ください。
※飲み物等はご持参ください。



浸食された砂浜。このような地形が各地で広がっています。

このプログラムは、土木学会西部支部が主催する一般向けのプログラムです。

お申込みURL

お問い合わせ
土木学会西部支部講習講演部会　担当主査　清野 聡子　E-mail：ecoevent@civil.kyushu-u.ac.jp
主催 土木学会西部支部
〒810-0041　福岡市中央区大名 2-4-12 CTI ビル 1F
http://www.jsce.or.jp/branch/seibu/

「QRコード」は株式会社デンソーウェーブ様の登録商標です。

日本から消えてゆく砂浜　災害リスクが増大する国土の危機

日本は周囲を海に囲まれた島国ですが、「海岸浸食」によって毎年 160 ヘクタール、大濠公園の約 4 倍もの砂浜が毎年失われています。砂浜は、沖で波を砕き、岸での波を弱めるため、砂浜の消失はそのまま津波の災害リスクを高めることになります。

海岸浸食の原因は、地球温暖化による海水面の上昇ということもありますが、国土保全のための防波堤や沿岸道路の開発がそのスピードを加速させています。

糸島の美しい海岸を残すことはできるのか？

今回、公益社団法人土木学会西部支部では、「砂浜は未来に残せるのか？　－糸島半島の美しき砂浜の現状と課題－」と題したエクスカーションを実施します。

糸島市は、かつては伊都国として繁栄し、近年はイギリスの情報誌「MONOCLE（モノクル）」が実施した『輝く小さな街（Brightlights, small city）』の 2021 年ランキングで、世界 3 位に選ばれる注目度の高い都市であり、福岡県を代表するビーチを数多く有しています。

毎年多くの観光客が訪れるほど美しい砂浜を、少し違う視点から見ると、海岸浸食の現状と今後の課題が見えてきます。古代から海洋都市として栄えてきた福岡・糸島だからこそ知ることのできる学びの機会を提供します。

主催：公益社団法人 土木学会西部支部（講演講習部会）
日時：2025 年 3 月 22 日（土）9:00 集合
集合場所：九大学研都市駅北口（JR 筑肥線）
資料代：1,000 円（昼食は別途）
募集対象：土木学会会員、一般（中学生以上）
参加人数：20 人程度
締切： 3 月 20 日、人数に達し次第締め切り

お申込：メールで
ecoevent@civil.kyushu-u.ac.jp
に所属、氏名、当日朝にご連絡がとれる連絡先をお報せください。